三栗経営塾

■内容サンプル（＊）

■攻めの経営のためのキーワード20

VOL. 1.No. 1

第一回　4. ウィンブルドン現象

1986 年、サッチャー政権はビッグバーンと呼ばれる大規模な金融自由化を実施した結果、ロンドンシティには多数の外資系金融機関が進出し、英国の金融機関のほとんどが買収されるか、合併されました。とりわけ、英国の伝統的投資銀行であるマーチャンバンクは、ロスチャイルド銀行以外、姿を消しました。今や、シティは米国系やドイツ系金融機関が中心の金融マーケットです。それは、ちょうどロンドン郊外にあるウィンブルドンで開催されるテニス大会が外国人選手に占められていることから、ウィンブルドン現象と呼ばれるようになりました。英国資本の金融機関は淘汰されましたが、一方、シティはニューヨークを凌ぐほど金融マーケットとして活性化しました。英国経済は、今や金融業を核に成長を続け、また、多くの雇用と多額の税収を獲得しています。